消費生活相談室

楽しくて通いつめ…健康食品に2,000万円！

高齢者にとって健康は一大関心事です。その心理をついた商法で大事な資産を失くしてしまったという相談が後を絶たず、国民生活センターが注意を呼び掛けています。

事　例

隣人に誘われ、健康の話をしてくれる期間限定の健康食品の店へ行った。そこで友達もでき、楽しくて毎日のように通っていた。店長も優しく接してくれ、孫のようにかわいかったので、店長のためと思い健康食品を買い続けた。はじめは現金で支払っていたが「金券のほうが得だから」と勧められ、金券に切り替えた。これまで現金と金券をあわせて 2,000 万円分ほど購入した。金券は全て店長に預けていたが、ある時残高を聞くと、思っていた額よりかなり少なかった。不審に思い、店長を問いただしてもはぐらかされ、不信感から解約を伝えたが、急に冷たい態度になり相手にもしてくれない。

ひとこと助言

- 一度通い始めると、店の楽しい雰囲気に夢中になったり、店員と親しくなったりして通いつめ、気づいたら大金をつぎ込んでいたということが少なくありません。「無料」「格安」などと勧誘されたり、知り合いに誘われたりしても、出向かないようにしましょう。
- 事例のように、特典が付くからと大量に金券や商品券のまとめ買いを進められ、後から現金に戻すように申し出ても応じてくれない、という相談も寄せられています。金券などのまとめ買いは避けましょう。

小郡市消費生活相　談　室

▶窓口開設日
毎週月・火・木・金曜日／午前９時～正午、午後１時～４時

▶問い合わせ先
小郡市消費生活相談室
☎72－2111内線144

こちら119

久留米広域消防本部
三井消防署
☎ 72－5101（代）

救急車の適正利用について

その救急車、本当に必要ですか？

救急車の出動件数は、年々増加しています。その中には、緊急性がないのに救急車を要請するケースもあり、本当に救急車が必要な場合の対応に支障が出かねない状況です。

みなさんの意識で「尊い生命」を救ってください。

119 番通報をすると、通報された場所に最も近い消防署から救急車が出動しますが、同じ地域で救急車の要請が重なると、遠い消防署から出動するため、災害現場までの到着時間が長くなり、１分１秒を争う生命の危険にある傷病者への対応が遅れてしまう恐れがあります。

「尊い生命」を救うためには、救急車の適正利用が必要です。

激しい胸痛や頭痛、手足の麻痺など命にかかわるような病気が予想され緊急に病院へ搬送しなければならない場合は、迷わずに 119 番通報をしてください。

「ＰＡ連携」について

ＰＡ連携とは、消防車（Pumper）と救急車（Ambulance）が同時出動し、相互に連携して救急活動を行うもので、双方の頭文字から「ＰＡ」と呼ばれています。

久留米広域消防本部では、患者さんを迅速・安全に搬送するため、救急現場に消防車を同時に出動させる場合があります。

救急車を呼んでも消防自動車がサイレンを鳴らして同時に出動する場合があります。

皆様のご理解とご協力をお願いします。